

言語文化	単位数	2 単位	学科・学年・学級	
------	-----	------	----------	--

1 学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようとする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようとする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 使用教科書など

使用教科書	東京書籍「精選言語文化」（言文 002-902）
副教材など	「精選言語文化学習課題ノート」（準拠ノート）／「新総合図説国語」／「新精選古典文法」／「新精選古典文法 準拠ノート」／「新精選古典文法 演習ノート」／「新精選古典文法 実戦ノート」／「新徹底理解高校漢文」／「新徹底理解高校漢文ワーク」／古語辞典／その他、QR コンテンツ（教科書）、指導用 DVD-ROM 収録の補助資料など

3 評価の3観点と学習指導要領との対応

平成 30 年告示の学習指導要領では、評価の観点が「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の 3 つとなった。

学習指導要領との対応は以下のとおりである。

- ・「知識・技能」：学習指導要領の〔知識及び技能〕について指導したことを評価する。
- ・「思考・判断・表現」：学習指導要領の〔思考力、判断力、表現力等〕について指導したことを評価する。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」：学習指導要領に直接該当する項目はないが、次の 2 つの側面を評価することが求められている。
 - ①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとする側面。
 - ②①の粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとする側面。

4 「年間指導計画例」の見方

本資料の各項目の概要は、以下のとおりです。

《薄いグレーの見出し》

- ・学期と各編の単元番号と名称、配当月を示した。

《領域・教材名・ページ数・配当時数》

- ・領域（読む／書く）、教材名、ページ数、配当時数を示した。

《学習指導要領との対応》

- ・学習指導要領の指導事項や言語活動例との対応を示した。

記号の意味

〔知技〕 …… 「知識及び技能」の指導事項

〔思判表〕 … 「思考力、判断力、表現力等」の指導事項

（活）………… 「思考力、判断力、表現力等」の言語活動例

《学習目標》

- ・附録「この教科書で学ぶこと」に掲載の学習目標を示した。

《学習活動例》

- ・配当時数の中で考えられる学習活動の例を示した。

記号の説明

*………… 指導上の留意点や別案

《評価規準例》

- ・「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点による評価規準例を示した。
- ・「知識・技能」の評価規準例は、各教材で育成を目指す資質・能力に該当する学習指導要領の〔知識及び技能〕の指導事項の文言をそのまま用いて、文末を「～している。」とした。
- ・「思考・判断・表現」の評価規準例は、各教材で育成を目指す資質・能力に該当する学習指導要領の〔思考力、判断力、表現力等〕の指導事項の文言をそのまま用いて、冒頭を「（領域名）において、」として領域を明示し、更に文末を「～している。」とした。
- ・「知識・技能」「思考・判断・表現」の評価規準例は、扱っている全ての指導事項について設定した。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」は、次の4つの内容を全て含め、各教材の目標や学習内容等に応じて、その組み合わせを工夫しながら設定している。また、文末は「～しようとしている。」とした。

- ①粘り強さ〈積極的に、進んで、粘り強く等〉
- ②自らの学習の調整〈学習の見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等〉
- ③他の2観点において重点とする内容（特に、粘り強さを發揮してほしい内容）
- ④当該単元の具体的な言語活動（自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動）

記号の意味

- [知技] ……「知識・技能」の評価規準例
- [思判表] …「思考・判断・表現」の評価規準例
- [主] ……「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準例

◆年間指導計画例

領域・教材名 ページ数・配当時数	学習指導要領と の対応	学習目標	学習活動例 (＊は指導上の留意点など)	評価規準例
■ 1 学期				
現代文編 1 小説（4月）				
読む 羅生門〔言語〕 P 10 3 時間	[知技] (1)ア、イ、ウ、エ [思判表] 読むこと(1)ア、オ	・極限状態にある登場人物の心情の変化を、場面の展開に即して読み取り、主題について考える。	<p><第1時></p> <p>1 全文を通読し、時代背景を確かめる。(手引き①) 2 場面の変化に注意して、本文全体を四つの意味段落に分ける。(手引き②) 3 「作者」の説明に従って、「下人」の内面の状態を具体的に読み取り、まとめる。(手引き③1) 4 「作者」の説明に従って、「下人」の行動を順に従つて整理する。 5 「下人」の内面の変化を順に従つて整理する。(手引き②)</p> <p><第2時></p> <p>1 「下人」と「老婆」の行動を順を追つて整理する。 2 「下人」と「老婆」の会話部分の意味を読み取り、まとめる。(手引き④1) 3 「下人」の内面の変化を、変化のきっかけと関連づけながら、整理する。(手引き②・③2・④2) 4 「下人」の内面を「作者」が説明している部分を抜き出し、「下人」と「老婆」のほかに、もう一人の登場人物（陰のような人物）がいる小説の構造について考え、まとめる。(手引き③2)</p> <p><第3時></p> <p>1 「黒洞々たる夜」という表現に留意して、「老婆」のその後について考える。</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。 <p>[主] 進んで描かれている内容についての見解をまとめ、学習課題に沿つて、発表や討論を通じて得た他の意見も踏まえながら、考えを深めようとしている。</p>

			<p>2 「下人の行方は、誰も知らない。」という末文の意味を考える。(手引き⑤)</p> <p>3 小説の主題について、自分なりに考えて発表する。</p> <p>4 「老婆(下人)」の発言についてどのように思うか考えをまとめて討論する。(言語活動1)</p> <p>5 さまざまな門の構造や役割について調べ、作中の羅生門の構造や役割がどういったものかを考える。(言語活動2)</p> <p>6 「羅生門」の時代背景について、「災害」や「内乱」などの観点から調べてレポートにまとめる。(言語活動3)</p>	
<p>〔言語〕 翻案作品を原作と読み比べる P24 1時間</p>	<p>[知技] (1)ア [思判表] 読むこと(1)エ、オ ④ 読むこと(2)ウ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 古典を元にして作られた作品を原作と読み比べ、理解を深める。 	<p>1 翻案作品とはどのようなものか確認する。 2 原作(25ページ)の本文のA～Dについて、「羅生門」で対応する箇所を探し、24ページの(1)～(3)のいずれに該当するか考える。 3 2を基に原作と「羅生門」を比較し、「羅生門」で省略・変更されている点が果たす役割について考える。 4 原作の波線ア～ケについて、「羅生門」で対応する箇所を探し、24ページの(1)～(3)のいずれに該当するか考える。(課題1) 5 4で検討した中から、重要だと思うものを選び、「羅生門」の創作性にとってどのように重要なか、自分の考えをまとめ、話し合う。(課題2) 6 「大刀帯の陣に魚を売る姫のこと」(『今昔物語集』)と「羅生門」を比較し、同様に分析する。(課題3) 7 近代小説における古典文学の翻案の例を調べ、発表する。(課題4)</p>	<p>[知技] 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。</p> <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において、作品や文章の成立した背景やほかの作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持っている。 <p>[主] 進んで古典を元にして作られた作品について理解を深め、学習課題に沿って、翻案作品と原作との違いや、翻案作品の創作性について考えようとしている。</p>
古文編1 古文入門(4月)				
読む 児のそら寝	[知技] (1)ア、ウ、エ／(2)ウ	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的仮名遣いについて理解し、説話 	<p>□古文と現代文の違いについて確認する。</p> <p>□説話というジャンルについて理解する。</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあ

<p>P 102</p> <p>●古文学習のしるべ1 古文の言葉と仮名遣い</p> <p>P 104 1時間</p>	<p>[思判表] 読むこと(1)ア [知技](2)ウ、エ [思判表] 読むこと(1)ア</p>	<p>のおもしろさを読み取る。</p>	<p>1 本文を音読し、歴史的仮名遣いに慣れる。(手引き1・古文学習のしるべ1) 2 児の気持ちの変化を整理し、最後の描写の意味について考える。(手引き2・3) 3 現代語訳する際の注意点を理解する。(古文学習のしるべ1)</p>	<p>ことを理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 ・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。 <p>[思判表]「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。</p> <p>[主] 進んで歴史的仮名遣いについて理解し、学習課題に沿って説話のおもしろさを読み取ろうとしている。</p>
<p>読む 用光と白波</p> <p>●古文学習のしるべ2 古語を調べるために</p> <p>P 106 1時間</p>	<p>[知技] (1)ア、ウ、エ／(2)ウ [思判表] 読むこと(1)ア [知技](2)ウ、エ [思判表] 読むこと(1)ア</p>	<p>・文語の品詞について理解し、登場人物の心情を読み取る。</p>	<p>1 歴史的仮名遣いに留意し、本文を音読する。 2 用光と海賊の行動及び心情を読み取る。(手引き1・2) 3 話末評語の意味と作者の意図を考える。(手引き3) 4 古語の品詞や活用について理解し、古語辞典の引き方に慣れる。(古文学習のしるべ1・2)</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 ・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。

				<p>[思判表]「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。</p> <p>[主]進んで文語の品詞について理解し、学習課題に沿って登場人物の心情を読み取ろうとしている。</p>
読む 絵仏師良秀 P 110 1時間	<p>[知技] (1)ア、ウ、エ／(2)ウ</p> <p>[思判表] 読むこと(1)ア</p>	<ul style="list-style-type: none"> 文語の活用について理解し、叙述を基に人物像を読み取る。 	<p>1 語の意味を確認しながら本文を音読する。 2 人々と良秀の言動を読み取る。 3 良秀の人物像について考える。(手引き 1・2) 4 用言の活用、係り結び、接続助詞「ば」の用法を理解する。(語句と表現 1・古文学習のしるべ 2・3)</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 <p>[思判表]「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。</p> <p>[主]進んで文語の活用について理解し、学習課題に沿って叙述を基に人物像を読み取ろうとしている。</p>
読む 大江山の歌 ●古文学習のしるべ3 係り結び／仮定条件と 確定条件 P 112 P 114 1時間	<p>[知技] (1)ア、ウ、エ／(2)ウ</p> <p>[思判表] 読むこと(1)ア</p> <p>[知技](2)ウ、エ</p> <p>[思判表] 読むこと(1)ア</p>	<ul style="list-style-type: none"> 文語のきまりに注意しながら本文を音読する。 意しながら、登場人物の言動と和歌の内容を読み取る。 	<p>1 主語に注意しながら本文を音読する。 2 定頼中納言の言動の内容を把握する。(手引き 1・3) 3 小式部内侍のとった行動、詠んだ和歌の内容を理解する。(手引き 2) 4 用言の活用を確かめる。(語句と表現 1・古文学習のしるべ 2)</p> <p>□四つの説話の中から、興味・関心を持った作品について、グループごとに話し合い、その結果を発表する。 □古文を読む基礎について確認する。(古文学習のしるべ 2)</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。

			べ1・2・3)	<p>について理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。 <p>[思判表]「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。</p> <p>[主]進んで文語のきまりや古典特有の表現について理解し、学習課題に沿って登場人物の言動と和歌の内容を読み取ろうとしている。</p>
--	--	--	---------	--

漢文編1 漢文入門（5月）

読む 訓読の基本 〔言語〕漢字の読みと意味—漢和辞典を活用しよう	P 230 P 239 2時間	<p>[知技] (1)ア、ウ、エ／(2)ア、ウ [思判表] 読むこと(1)ア</p> <p>[知技](1)イ、ウ／(2)エ [思判表] 読むこと(1)ア</p>	<ul style="list-style-type: none"> 漢文の特色を知り、訓読のきまりを理解するとともに、格言に親しむ。 <p>【訓読】</p> <ol style="list-style-type: none"> 基本構造「主語・述語」と句読点・送り仮名・書き下し文について理解する。 基本構造「修飾語・被修飾語」を理解し、句読点・送り仮名・書き下し文に慣れる。 基本構造「述語・目的語（補語）」と返り点について理解し、書き下した上で現代語訳する。（手引き1） 漢文訓読に関する基本的な知識および漢文の基本構造について確認する。（手引き2） <p>【格言】</p> <ol style="list-style-type: none"> 前半の七つの格言を音読し、既習の訓点の知識を確認し、返読文字と一レ点の用法について理解する。（手引き1・2・書き下し文のきまり） 	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 我が国の言語文化の特質や我が国と外国の文化との関係について理解している。 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。 <p>[思判表]「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に</p>
--	-------------------------------	--	--	--

		<p>2 後半の五つの格言を音読し、助字、置き字と上・中・下点の用法について理解する。(主な置き字とその用法)</p> <p>3 「訓読」で学習した訓点の知識に加え、返り点、返読文字、置き字について整理した上で書き下し文にし、また、漢文の意味を考えて訓点を施す。(手引き1・2・3・書き下し文のきまり)</p> <p>【再読文字】</p> <p>1 「未来」「将来」の熟語から、再読文字の用法を理解する。</p> <p>2 「再読文字」の漢文を、訓点に従って音読し、書き下し、現代語訳して、各再読文字の用法について確認する。(書き下し文のきまり・再読文字の種類と用法)</p> <p>3 「学習の手引き1・2」に取り組み、再読文字の用法に慣れる。(手引き1・2)</p> <p>□「格言」の十二の格言と、「再読文字」の八つの漢文の中から、それぞれ興味・関心を持った漢文を使った例文を作り、発表し合う。</p> <p>□漢文訓読に関する基礎知識について復習する。</p> <p>□「言語活動 漢字の読みと意味 漢和辞典を活用しよう」を利用して、漢和辞典の項目と利用法を確認する。(言語活動 課題1・2)</p> <p>□漢字の読みと意味の関係を確認し、漢字への理解を深める。</p>	<p>捉えている。</p> <p>[主] 進んで漢文の特色や訓読のきまりを理解し、見通しを持って、古典を学ぶ意味について考えを持とうとしている。</p>
読む 故事成語—三編〔言語〕 P246	<p>[知技] (1)ア、ウ、エ/(2)イ</p> <p>[思判表] 読む</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・故事成語の元になつた話を読むことを通して、漢文の読 	<p>□中学校で学習した故事成語をどのように学んだか発表し、故事成語を再確認する。</p> <p>□知っている「故事成語」を、国語便覧等を使いグルー</p> <p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。

	こと(1)ア、エ、オ 〔活〕読むこと(2)イ	解に慣れ親しむ。	普で調べ、意味や背景について理解を広げる。	・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 ・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。
■漢文の窓1 『韓非子』の寓話のねらい P 241	[知技](2)イ、エ [思判表] 読むこと(1)ア		<p>【矛盾】</p> <p>1 本文を繰り返し音読し、正しく書き下し文を書くことで、書き下し文のきまりを確認する。 2 脚注や語句・句法の説明を手がかりに現代語訳し、内容を整理する。（手引き1・2） 3 「矛盾」の意味を確認し、「矛盾」を使った短文を書く。（語句と表現1） 4 『韓非子』において「矛盾」が儒家批判のための寓話であったことを理解する。（漢文の窓1）</p>	[思判表] ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。
■漢文の窓2 「助字」—漢文理解の鍵 P 244 1時間	[知技] (2)ウ [思判表] 読むこと(1)ア		<p>【助長】</p> <p>1 訓点に従って正確に読めるようになるまで、繰り返し音読する。 2 書き下し文を書くことで、書き下し文のきまりを確認する。（手引き1） 3 脚注や語句・句法の説明を手がかりに現代語訳し、内容を整理する。（手引き2） 4 「助長」の意味を確認するとともに、身近なところに例を探し、発表する。（語句と表現1） 5 グループで、孟子の様々な言葉を調べ、その意味を発表する。</p> <p>【推敲】</p> <p>1 本文を繰り返し音読し、再読文字の箇所を含め、書き下し文を確認する。 2 脚注を参照して正確に現代語訳し、内容を理解する。（手引き1・2） 3 本文の韓愈の発言についてグループで話し合う。（言語活動） 4 「推敲」の意味を確認するとともに、「推敲」を使つ</p>	[主]進んで訓読のきまりを理解し、学習課題に沿って、故事成語の元になった話を読み、故事成語の果たす役割について考えようとしている。

			<p>た短文を書く。（語句と表現1）</p> <p>□ 3つの話の内容を確認し、それぞれの趣旨をふりかえる。</p> <p>□ 国語便覧などを用い、本教材以外の故事成語に触れる。</p> <p>□ 故事成語が日常のどのような場面で使われているか、話し合い発表する。</p> <p>□ 故事成語が、今も身近にあって、我々のあり方・生き方を考える言葉であることを理解する。</p>	
--	--	--	--	--

現代文編1 小説（5～6月）

読む 城の崎にて〔言語〕 P28	<p>【知技】(1)ア、イ、ウ、エ 【思判表】読むこと(1)ア、イ</p> <p>【知技】(2)カ 【思判表】読むこと(1)イ、ウ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小動物の生と死を巡る出来事が主人公の心情に及ぼした影響を、表現に即して読み取る。 	<p><第1時></p> <p>1 教科書の作者紹介などを参照して、志賀直哉の代表作を知るなど、作者への関心を高める。</p> <p>2 本文を通読して、時間のまとまりにしたがって、全体を六つの部分に分ける。（手引き①）</p> <p>3 各場面の一日の時間帯や季節を確認し、それぞれの効果について話し合う。（言語活動1）</p> <p>4 「自分」が、城崎温泉に出かけた理由を読み取る。</p> <p>5 小説の舞台や「自分」の心境について読み取る。（手引き③①）</p> <p><第2時></p> <p>1 死んだ蜂と働いている蜂の様子と、それを見た「自分」の心境について読み取る。（手引き②・③②）</p> <p>2 一生懸命に逃げ回るねずみの様子と、それを見た「自分」の心境について読み取る。（手引き②・③③・④）</p> <p>3 偶然にいもりを殺してしまったことと、それをしてしまった「自分」の心境について読み取る。（手引き②・③④・⑤）</p>	<p>【知技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。 <p>【思判表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕
■ 小説の読み方 P40 2時間				

			<p>4 三つの小動物の死に出会ったことで、「自分」の死に対する考え方がどのように変化したか、話し合う。(言語活動2)</p> <p>5 生と死について「両極ではなかった」という独自な死生観に到達した理由について考える。(手引き5)</p> <p>6 一人称小説である「城の崎にて」の文体や描写の特徴についてまとめる。(言語活動3)</p>	<p>方、表現の特色について評価している。</p> <p>[主]進んで小動物の生と死とを巡る出来事が主人公に及ぼした影響を読み取り、学習課題に沿って、主人公が到達した死生観について考えを深めようとしている。</p>
読む 鏡	P 43	<p>[知技] (1)ア、イ、ウ、エ</p> <p>[思判表] 読むこと(1)ア、イ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分という存在について、特有の語り口で書かれた小説を読み、「鏡」が持つ意味について考える。 <p><第1時></p> <ol style="list-style-type: none"> 自分が「怖い」と思った体験を表現する。 通読して、「僕」という人物、小説の舞台設定、文章構成、語りの工夫などを読み取り、まとめる。(手引き1) 第一段～第二段を読み、時代背景を考慮に入れながら、「僕」という人物の設定を読み取り、まとめる。 「僕」の性格や考え方を、仕事に対する態度から読み取り、まとめる。 <p><第2時></p> <ol style="list-style-type: none"> 第三段を読み、このときの「僕」の心理状態を読み取り、まとめる。(手引き2) 「僕」と鏡に映った「奴」との関係を、ストーリーの展開に即して考え、まとめる。(手引き3・4) 第四段を読み、題名も手がかりにして、「僕」の体験が自己の内面を脅かす体験だったことを読み取り、まとめる。(手引き5) 	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 我が国の言語文化の特質や我が国と外国の文化との関係について理解している。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 <p>[主]進んで本文に表れているものの見方や感じ方を捉え、学習課題に沿って、特有の語り口で書かれた小説を読み、「鏡」が持つ意味について考えようとしている。</p>
■現代文の窓1 怪談の文学史	P 53 2時間	<p>[知技] (1)ア／(2)ア</p> <p>[思判表] 読むこと(1)エ</p>		

				る。
読む 〔言語〕改稿による違いを読み比べる P 54 1時間	[知技](1)ア、エ [思判表] 読むこと(1)エ、オ	・改稿された作品の表現を元の作品と比べ、理解を深める。	1 資料と教科書五一ページ8行目以降を比較し、どのような改稿が行われているかを確認する。 2 「描写がより具体的に、詳しくなっている」とは、どの部分が確認し、その変更による効果について考える。(課題1) 3 「人間にとって……あるだろうか」という表現が加えられたことにより、何がどのように変わったか、話し合う。(課題2) 4 資料と教科書とのほかの違いについても気づいたことを挙げて、話し合う。(課題3)	[知技] ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 [思判表] ・「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。 [主]進んで改稿された作品の表現を元の作品と比べてその変更による効果について考え、学習課題に沿って、作品に込めた作者の思いを捉えようとしている。

古文編2 隨筆（6～7月）

読む 徒然草 〔言語〕 P 116 2時間	[知技] (1)ア、ウ、エ／(2)ウ [思判表] 読むこと(1)ア、イ、オ ④ 読むこと(2)イ	・隨筆に表れた作者の考え方、叙述を基に的確に捉える。	□『徒然草』と作者について、必要な知識を得る。 【丹波に出雲といふ所あり】 1 主語を確認しながら、話のあらすじを読み取る。(語句と表現1) 2 聖海上人の言葉の変化に沿って、その心情を読み取る。(手引き1) 3 この話のおもしろさは、どういうところにあるか説明する。(手引き2・3) 【ある人、弓射することを習ふに】 1 全文を音読し、話のあらすじを読み取る。(語句と表現1)	[知技] ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 [思判表] ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容
--------------------------------	--	----------------------------	---	--

			<p>2 第一段落と第二段落の関係を理解する。（手引き 1・2）</p> <p>3 主題を考える。（手引き 3）</p> <p>【九月二十日のころ】</p> <p>1 主語に注意しながら、話のあらすじを読み取る。（手引き 1・語句と表現 1・2）</p> <p>2 人物の行動を整理し、まとめる。（手引き 1）</p> <p>3 作者は、「その人」のどのようなところに感動したのかを考える。（手引き 2・3）</p> <p>4 絵の違いを見つけ、その違いについて考えたことを話し合う。（言語活動）</p> <p>【今日はそのことをなさんと思へど】</p> <p>1 話のあらすじを読み取る。（語句と表現 1・2）</p> <p>2 本文の主旨を理解する。（手引き 1）</p> <p>3 作者の考え方について、自分の体験を踏まえて話し合う。（手引き 2）</p> <p>4 本章段と作者が詠んだ歌に込められた思いを捉える。（言語活動・古文学習のしるべ 4）</p> <p>□四つの教材について、作者は伝聞したことや自分の考えをどのようにまとめているか、考える。</p> <p>□『徒然草』や作者について、知識を深める。</p>	<p>や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持っている。 <p>【主】進んで文語のきまりや古典特有の表現を理解し、学習課題に沿って作者の考えを的確に捉えようとしている。</p>
読む 方丈記 ■古文の窓 1	P 124	<p>【知技】 (1)ア、ウ、エ／(2)ウ</p> <p>【思判表】 読むこと(1)ア、イ、ウ</p> <p>【知技】 (2)イ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 表現の特色に注意しながら、作品の内容を解釈する。 <p>□『方丈記』の内容と作者、時代背景についてまとめる。</p> <p>【ゆく河の流れ】</p> <p>1 全文を繰り返し音読し、その構成と内容を捉える。（語句と表現 1～3）</p> <p>2 「人」と「栖」と、「ゆく河の流れ」と「淀みに浮かぶうたかた」との類似点について考える。（手引き 1）</p>	<p>【知技】</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解して

五大災厄—無常観の背景 P 126 1時間	【思判表】読むこと(1)エ		<p>3「無常を争ふさま」とはどのようなことを踏まえて、『方丈記』で描かれる「無常観」について考える。(手引き2・古文の窓1)</p> <p>□対句表現や比喩などを指摘し、その効果を考える。(語句と表現3)</p> <p>いる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 <p>【思判表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 <p>[主]進んで表現の特色を理解しながら作品の内容を解釈し、学習課題に沿って『方丈記』で描かれる「無常観」について考えようとしている。</p>
読む枕草子〔言語〕 P 128 ■古文の窓2 牛車	<p>【知技】(1)ア、ウ、エ／(2)ウ、エ</p> <p>【思判表】読むこと(1)ア、イ、オ</p> <p>④ 読むこと(2)イ</p> <p>【知技】(2)イ</p> <p>【思判表】読む</p>	<p>・作品の内容を自分と関係づけながら、ものの見方、感じ方、考え方を深める。</p> <p>□この作品の内容と作者について、今までの学習で得ていた知識とともに、簡単に整理し、理解する。</p> <p>【五月ばかりなどに山里に歩く】</p> <p>1 第一段落の情景描写の特徴をまとめる。(手引き1)</p> <p>2 第二段落で描かれた出来事について考える。(手引き2・古文の窓2)</p> <p>3 本文全体から読み取れる作者の気分をまとめる。(手引き3)</p> <p>4 類義語の意味の違い、格助詞「の」の用法を知る。(語句と表現1・2)</p>	<p>【知技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な

P129 ■古文の窓3 『枕草子』のパロディ P 132 2時間	こと(1)エ 【知技】(1)ア／ (2)イ 【思判表】読む こと(1)エ		<p>【ありがたきもの】</p> <p>1 この章段での「ありがたし」の意味を、列挙されているものから類推する。（手引き1）</p> <p>2 列挙された事例の特徴を考える。（手引き2）</p> <p>3 『枕草子』や江戸時代に作られたそのパロディを参考にしながら、自分にとっての「ありがたきもの」および現代版「○○もの」を書く。（古文の窓3・言語活動1）</p> <p>□整理し比較することで、三作品それぞれの特徴を捉える。（言語活動2）</p>	<p>文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。 <p>【思判表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。 <p>【主】進んで自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、学習課題に沿って、作者のものの見方や感じ方、考え方を捉えたり、自分と関係づけて考えたりしようとしている。</p>
--	--	--	---	---

漢文編2 寓話（7月）

読む 寓話一三編 ■漢文の窓3 名前の表し方 P 246 P 250	<p>【知技】(1)ア、 ウ、エ／(2)ア、 ウ</p> <p>【思判表】読む こと(1)ア、イ</p> <p>【知技】(2)ア、ウ</p> <p>【思判表】読む こと(1)ア</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話の展開や登場人物の言動を読み取り、寓話に込められた意図について考える。 	<p>□「寓話」の辞書上の意味を確認する。</p> <p>□故事成語として知られている「寓話」を国語便覧や漢和辞典等で調べる。</p> <p>【借虎威】</p> <p>1 本文を音読し、漢文特有の読み方に慣れる。</p> <p>2 本文を書き下し文にし、現代語訳する。（手引き1）</p> <p>3 本文の漢字の用法や句法について整理する。</p> <p>4 「虎の威を借る（狐）」という故事成語について理解</p>	<p>【知技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文
---	--	---	---	--

3時間		<p>を深める。（語句と表現1）</p> <p>【朝三暮四】</p> <p>1 本文を音読し、漢文特有の読み方に慣れる。</p> <p>2 本文を書き下し文にし、登場人物の場面ごとの言動をまとめる。</p> <p>3 漢文の重要表現の種類と用法を確認し、整理する。（手引き1）</p> <p>4 衆狙の反応（怒・喜）の変化について考える。（手引き2・語句と表現1）</p> <p>【塞翁馬】</p> <p>1 本文を音読し、漢文特有の読み方に慣れる。</p> <p>2 正しい訓読をもとに語彙を調べ、正確に現代語訳する。（手引き1）</p> <p>3 「塞翁」と周囲の人々の場面ごとの言動を確認する。（手引き2・3）</p> <p>4 本文に述べられている「禍」と「福」について順番に指摘し、ノートにまとめる</p> <p>5 「塞翁」の考え方について確認する。</p> <p>6 「塞翁が馬」という故事成語の意味や使い方を確認する。（語句と表現1）</p> <p>□「塞翁が馬」やその他の故事成語について調べる。（語句と表現1・2）</p> <p>□寓話三編を通して作者の意図や、背景にある思想を理解する。</p> <p>□一人の人間について、現代日本の一般とは違い、複数の「名前」があることを理解する。（漢文の窓3）</p>	<p>化との関係について理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 <p>[主]進んで訓読のきまりを理解し、学習課題に沿って、話の展開や登場人物の言動を読み取り、寓話に込められた意図について考えようとしている。</p>
-----	--	--	--

■ 2学期

現代文編1 小説（9月）

読む 天井裏の時計〔言語〕 P 56 2時間	[知技] (1)ア、イ、ウ、エ [思判表] 読むこと(1)ア、オ	<ul style="list-style-type: none"> 現代を舞台とした小説を読み、人間関係の在り方や登場人物の心情の変化について考える。 <p><第1時></p> <ol style="list-style-type: none"> これまで読んだ小説の中で、印象に残る小説について発表する。 各場面の「時」の変化に注意して、本文を通読する。(手引き1) 第一の場面から読み取れる小山家の状況を捉える。(手引き2) <p><第2時></p> <ol style="list-style-type: none"> 手紙に書かれた時計にまつわる顛末を時間を追って確認するとともに、そのときどきの保育士や「彼」(＝売主の男性)の気持ちを捉える。(手引き3・4) 最後の場面の「彼らの中で、半年以上も……確かに見失われていたのだった。」に込められた意味について考える。(手引き5) 「夫婦二人は、その日は……深夜まで語り合った。」の内容について、想像したことを話し合う。(言語活動1) 	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。 <p>[主] 進んで本文の内容や構成、展開などを捉え、学習課題に沿って、人間関係の在り方や登場人物の心情の変化について考え、小説を読み味わおうとしている。</p>
---------------------------------	-------------------------------------	---	--

現代文編2 隨筆（9月）

読む 人生初季語〔言語〕 P 66 1時間	[知技] (1)ア、イ、ウ、エ [思判表] 読むこと(1)ア、イ	<ul style="list-style-type: none"> 俳句や季語に対する筆者の考え方について注意して、随筆を読み味わう。 <p>1 知っている俳句・季語で印象に残っているものについて発表する。</p> <p>2 それぞれの季語が持つイメージに注意しながら、本文を通読する。(手引き1)</p> <p>3 「A」と「B」の句を比較し、季語によってどのようなイメージが作られるかを捉える。(手引き2)</p> <p>4 「風」について、本文の例のほかにどのような季語があるか調べる。また、「風」に関わる季語を一つ取り上げ、その季語にまつわる自分の記憶とともに紹介し合う。(手引き3・言語活動1)</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。
--------------------------------	-------------------------------------	--	--

			<p>5 筆者が季語をどのようなものだと考えているか、まとめる。(手引き 4・5)</p> <p>6 「消えてゆく二歳の記憶風光る」の句を読んで、感じたことを話し合う。(言語活動 2)</p>	<p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 <p>[主]進んで筆者のものの見方や感じ方を捉えて隨筆を読み味わい、学習課題に沿って、俳句や季語に対する筆者の考え方を捉えようとしている。</p>
読む 耳覚めの季節 [言語] P 70 2 時間	<p>[知技] (1)ア、イ、ウ、エ [思判表] 読むこと(1)ア、オ</p>	<p>・耳から入ってきた言葉との出会いについて書かれた隨筆を、具体例に注意して読み取る。</p>	<p><第1時></p> <p>1 「耳覚め」とはどのようなことだと思うか発表する。 2 話題の展開に注意しながら、本文を通読する。(手引き 1) 3 寄席で落語を聴く筆者が、どのようなことを感じているか捉える。(手引き 2)</p> <p><第2時></p> <p>1 「へっつい幽霊」を聴いた筆者の未知の言葉との出会いについて考える。(手引き 3) 2 「耳覚めのときが来た」〔七三・12〕とはどのようなことか考える。(手引き 4) 3 「どこかでつながっているような気がするのだ。」〔七三・16〕とはどのようなことか、また、そのように述べる筆者の思いについて考える。(手引き 5) 4 耳から聞いて興味を持った言葉について話し合う。(言語活動 1) 5 自分の好きな本の一節を音読して紹介する。また紹介された一節の中で耳に残った言葉について、感想を伝え合う。(言語活動 2)</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。 <p>[主]進んで自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、学習課題に沿って、筆者の「耳覚め」についての体験や考えを読み取り、筆者の思いについて考えようとしている。</p>

読む 伊勢物語	P 134	<p>[知技] (1)ア、ウ、エ／(2)ウ</p> <p>[思判表] 読むこと(1)ア、イ、ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌物語に描かれている内容を、叙述を基に的確に捉える。 	<p>□作品についての教師の解説を聞き、その概略を理解する。</p> <p>【芥川】</p> <p>1 本文を音読した後、概略を発表し、ノートにまとめる。 (古文の窓4)</p> <p>2 女の高貴性と男の心情の推移を読み取る。また、「白玉か…」の歌に込められた男の心情と歌の役割を考える。(手引き1・2・語句と表現1・古文学習のしるべ4)</p> <p>【東下り】</p> <p>1 本文を通読し、旅の行程に注目しながら、三つの場面に分ける。(手引き1)</p> <p>2 第一段落の重要語に注意し、通訳する。</p> <p>3 主人公の「男」が「東下り」をするに至った事情について学び、その時の男の心情を考える。</p> <p>4 「唐衣…」の歌に用いられた和歌の修辞を理解とともに、そこに詠み込まれた心情を理解する。(手引き2)</p> <p>5 第二～第五段落において、どのような場所を、どのように旅したか、具体的に考える。</p> <p>6 第二～第四段落において、「宇津の山」「富士の山」がどのように描写され、和歌に取り入れられているか考える。</p> <p>7 第五段落において、「すみだ川」のほとりでの、男たちの心情について考える。(手引き3)</p> <p>8 全体を読み直し、男たちの心情の変化を、和歌に着目し、整理する。(手引き4)</p> <p>【筒井筒】</p> <p>1 本文を音読した後、三つの場面に分けて、各場面の大</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 ・「詠むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 <p>[主] 進んで歌物語の特徴や表現の仕方について理解し、学習課題に沿って、各章段に描かれた内容を的確に捉えようとしている。</p>
■古文の窓4 絵巻を読む	P 135	<p>[知技] (2)イ</p> <p>[思判表] 読むこと(1)エ</p>		
●古文学習のしるべ4 和歌の解釈	P 136 1 時間	<p>[知技] (2)ウ</p> <p>[思判表] 読むこと(1)ア</p>		

			<p>意をノートにまとめる。（手引き1・古文の窓5）</p> <p>2 「筒井筒…」「くらべこし…」の歌に込められたそれぞれの心情を想像する。（手引き2・古文学習のしるべ4）</p> <p>3 本文を精読し、筒井筒の女、高安の女の人物像を比較してまとめる。（手引き3）</p> <p>4 古今異義語や助詞の用法を確認する。（語句と表現1）</p> <p>【梓弓】</p> <p>1 本文を音読し、概略を理解する。</p> <p>2 男と女の行動を順を追って整理する。（手引き1）</p> <p>3 和歌を中心に、男と女の心情を捉える。（手引き2）</p> <p>4 紛らわしい語の識別方法を確認する。（語句と表現1）</p>	
読む 〔言語〕『伊勢物語』と 『大和物語』を読み比べる P 144 1 時間	[知技] (1)ア、 ウ、エ／(2)イ、 ウ [思判表] 読むこと(1)ウ、エ、オ (回) 読むこと(2)ウ	<ul style="list-style-type: none"> 複数の作品を読み比べて、それぞれの特徴を的確に捉える。 	<p>1 『伊勢物語』の概略を確認し、『大和物語』の概略について知識を得る。</p> <p>2 『大和物語』の三つの場面を読み、「筒井筒」と異なる点を整理する。（課題1）</p> <p>3 2を踏まえて、それぞれの話の特徴をまとめる。（課題2）</p> <p>4 それぞれの話を読んで、感じたことや考えたことを発表する。（課題3）</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 古典の作品に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的な背景などを理解している。 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などの関係を踏まえ、内容の解釈を深めて

				<p>いる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。 <p>[主]進んで複数の作品を読み比べ、学習課題に沿って、それぞれの特徴を的確に捉えようとしている。</p>
読む 〔言語〕和歌を自分の言葉で書き換える P149 1時間	<p>〔知技〕(2)ア 〔思判表〕読むこと(1)イ、ウ、オ ㊂ 読むこと(2)エ</p>	<p>・和歌を書き換えることを通して、自らの解釈を深める。</p>	<p>1 平安時代の貴族にとって、和歌は重要なコミュニケーションツールであったことを確認する。 2 一四九ページ上段を参考に、「駿河なる…」「筒井筒…」「くらべこし…」「あらたまの…」「梓弓真弓…」「梓弓引けど…」の歌のメッセージの核心をまとめること。(課題1) 3 2を踏まえて、現代のコミュニケーションツールで伝え合うことを想定し、それぞれの歌を自分の言葉で書き換える。(課題2) 4 書き換えた作品を互いに読み合い、元の和歌と比較しながら、表現の工夫について批評し合う。(課題3)</p>	<p>〔知技〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我が国の言語文化の特質や我が国と外国の文化との関係について理解している。 <p>〔思判表〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。 <p>[主]進んでコミュニケーションツールとしての和歌の役割について理解し、学習課題に沿って、和歌を書き換えようとしている。</p>
読む 〔言語〕『伊勢物語』と絵画・工芸 ■古文の窓5 恋愛と結婚 P150 P152 1時間	<p>〔知技〕(1)ア 〔思判表〕読むこと(1)ア、オ 〔知技〕(2)イ、ウ 〔思判表〕読むこと(1)エ</p>	<p>・古典を元にした絵画・工芸を通して、文章の内容を捉え直す。</p>	<p>1 『伊勢物語』が後世に与えた影響の一つに、絵画・工芸があることを確認する。 2 151ページの①～③の絵が、「東下り」のどの場面を描いたものか考える。(課題1) 3 ①～③から好きな絵を選び、「東下り」の本文が絵ではどのように表現されているか、解説文を書く。(課題2)</p> <p>□『伊勢物語』が、文学や芸能などの世界で、どのような影響を及ぼしたか調べ、発表する。 □「歌物語」と呼ばれる『伊勢物語』における本文と和</p>	<p>〔知技〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・古典の作品に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的な背景などを理解している。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 <p>〔思判表〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えていく

			<p>歌との関係や役割について考える。</p> <p>□「古文の窓5」を読み、当時の恋愛や結婚について理解する。（古文の窓5）</p>	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。 <p>[主]進んで古典を元にした絵画・工芸について理解し、学習課題に沿って、文章の内容を捉え直そうとしている。</p>
--	--	--	---	--

古文編4　日記（10月）

読む 土佐日記 ■古文の窓6 吉日・吉方と旅立ち ■古文の窓7 地名と和歌 ■古文の窓8 和語と漢語	P 154 P 155 P 157 P 160 1時間	<p>[知技] (1)ア、ウ、エ／(2)ウ</p> <p>[思判表] 読むこと(1)ア、ウ、エ</p> <p>[知技] (2)イ</p> <p>[思判表] 読むこと(1)エ</p> <p>[知技] (1)ア／(2)イ</p> <p>[思判表] 読むこと(1)エ</p> <p>[知技] (1)ウ／(2)ア、イ</p> <p>[思判表] 読むこと(1)エ</p>	<p>・表現の特色を踏まえて、作品に込められた意図を考える。</p> <p>□日記と日記文学の違い、『土佐日記』と作者について概略を理解する。</p> <p>【馬のはなむけ】</p> <p>1 龍化表現を指摘し、この作品の表現の特色を考える。 (手引き1・語句と表現1)</p> <p>2 この章段に書かれた旅立ちの様子を読み取る。(手引き2・古文の窓6)</p> <p>3 冒頭の一文から、作者がどのような日記を書こうとしているのかを考える。(手引き3・語句と表現2)</p> <p>【羽根といふ所】</p> <p>1 前半〔初め～一五六・6〕を読み、書かれている内容のあらましを読み取る。(手引き1・古文の窓7)</p> <p>2 後半〔一五六・7～終わり〕を読み、和歌を詠むに至った経緯、および和歌の内容を読み取り、作者や母の悲しみとは何かを理解する。(手引き2・3・語句と表現1)</p> <p>3 文末、あるいは省略表現に着目し、特徴的な表現についてその意味や効果を考える。(語句と表現2)</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・我が国の言語文化の特質や我が国と外国の文化との関係について理解している。 ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕
---	---	--	--	--

		<p>【帰京】</p> <p>1 全体を読み、帰宅した時の家の様子と、その時の作者の心情を読み取る。（手引き 1・語句と表現 1・2）</p> <p>2 和歌を詠むに至った経緯や、和歌に託された心情を読み取る。（手引き 2・語句と表現 2）</p> <p>3 末尾の一文を読み取り、冒頭と照応している結語であることを理解する。（手引き 3）</p> <p>□『土佐日記』の文学史的な位置づけやその後の作品に与えた影響等を調べる。</p> <p>□教材全体の中から作者の表現の工夫が分かる箇所を抜き出し、その効果とともにまとめる。</p>	<p>方、表現の特色について評価している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 <p>[主] 進んで本文の表現の特色を理解し、学習課題に沿って、作品に込められた意図を考えようとしている。</p>
--	--	---	---

漢文編3 詩文（10月）

読む 絶句と律詩一八首 〔言語〕 ■漢文の窓4 漢詩の形式ときまり P 259 2時間	<p>[知技] (1)ア、ウ、エ／(2)ア、イ、ウ [思判表] 読むこと(1)ア、イ、ウ、エ、オ ㊂ 読むこと(2)イ、ウ [知技] (2)ウ [思判表] 読むこと(1)ア</p>	<ul style="list-style-type: none"> 漢詩に描かれている情景や心情を読み取り、優れた表現に親しむ。 <p>□唐という時代の特色、日本との関係などを理解する。 □「漢文の窓4 漢詩の形式ときまり」を読み、近体詩の最低限のきまりを理解する。（漢文の窓4）</p> <p>【鹿柴】【春曉】【春曉】</p> <ol style="list-style-type: none"> それぞれの詩の詩形と押韻を確認する。（手引き 3・漢文の窓4） それぞれの詩を訓点に従って正確に音読みし、書き下す。 展開に注意して現代語訳し、「自然」という章立てを意識しつつ、うたわれている状況を考える。（手引き 1） 「自然」という章立てを意識しつつ、それぞれどのような心情がうたわれているかを考える。（手引き 2） 理解した詩の内容をもとにそれぞれ暗唱する。（手引き 4） 孟浩然と幸田露伴の「春曉」（253 ページ）を読み比 	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 我が国の言語文化の特質や我が国と外国の文化との関係について理解している。 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容
---	---	--	--

		<p>べて、二つの詩の違いを論じる。（言語活動 1）</p> <p>【送元二使安西】【黃鶴樓送孟浩然之廣陵】</p> <p>1 それぞれの詩の詩形と押韻を確認する。（手引き 3・漢文の窓 4）</p> <p>2 それぞれの詩を訓点に従って正確に音読みし、書き下す。</p> <p>3 展開に注意して現代語訳し、「友情」という章立てを意識しつつ、うたわれている状況を考える。（手引き 1）</p> <p>4 「友情」という章立てを意識しつつ、それぞれどのような心情がうたわれているかを考える。（手引き 2）</p> <p>5 理解した詩の内容をもとにそれぞれ暗唱する。（手引き 4）</p> <p>【涼州詞】【春望】【香炉峰下、……】</p> <p>1 それぞれの詩の詩形と押韻および対句を確認する。（手引き 3・語句と表現 1・漢文の窓 4）</p> <p>2 それぞれの詩を訓点に従って正確に音読みし、書き下す。</p> <p>3 展開に注意して現代語訳し、「人生」という章立てを意識しつつ、うたわれている状況を考える。（手引き 1）</p> <p>4 「人生」という章立てを意識しつつ、それぞれどのような心情がうたわれているかを考える。（手引き 2）</p> <p>5 理解した詩の内容をもとにそれぞれ暗唱する。（手引き 4）</p> <p>6 唐詩に関する規則と特徴について復習し、多様で魅力にあふれた唐詩の世界を読み味わう。</p>	<p>や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。 <p>[主] 進んで漢詩の形式ときまりを理解し、学習課題に沿って、漢詩に描かれた情景や心情を読み取り、優れた表現に親しもうとしている。</p>
読む	<p>〔知技〕(1)ア、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・描かれた状況を考 	<p>□ 「雑説」という言葉の意味を捉える。</p>	〔知技〕

文 P 260 1時間	ウ、エ／(2)イ [思判表] 読むこと(1)ア、イ、ウ	えながら、文を読み、作者の主張について考える。	<p>1 本文を正しく音読する。</p> <p>2 段落ごとに、語句・句法に注意しながら正しく現代語訳し、内容を理解する。（手引き1・語句と表現1・2）</p> <p>3 段落相互の関係に留意し、各段落の要点を整理する。（手引き2）</p> <p>4 作者は「伯樂」と「千里馬」の比喩によって何を主張しようとしたのかを考える。（手引き3）</p> <p>5 韩愈の感慨について考えてみる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 <p>[主] 進んで文章の構成や漢文特有の表現を理解し、学習課題に沿って、描かれた状況をふまえて作者の主張について考えようとしている。</p>
書く 〔言語〕 訳詩を書く P 262 1時間	[知技] (1)ウ／(2)ウ、エ [思判表] 書くこと(1)ア、イ	<ul style="list-style-type: none"> ・元の漢詩の魅力が効果的に伝わるよう、表現を工夫して訳詩を書く。 	<p>□自分の選んだ漢詩の内容を確認し、具体的にイメージを膨らませる。（課題①②1・2）</p> <p>□訳詩を書き、推敲する。（課題②3・4）</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 ・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。 <p>[思判表]</p>

			<ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」において、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。 ・「書くこと」において、自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。 <p>[主] 進んで言葉の選び方や表現の仕方を工夫し、学習課題に沿って、元の漢詩の魅力が伝わるように訳詩を書こうとしている。</p>
--	--	--	---

現代文編3 詩歌（11月）

読む こころの鉢—短歌抄 P76	[知技](1)ア、ウ [思判表] 読むこと(1)ア、ウ	<ul style="list-style-type: none"> ・短歌独自の特徴と表現効果を理解し、言葉に込められた情景や心情を読み取る。 <p>1 短歌とはどのようなものか、どのような短歌を知っているかなどについて話し合う。 2 掲載された短歌を音読し、リズムを味わい、短歌に慣れる。（手引き1） 3 それぞれの歌について、読解・鑑賞をして話し合う。（手引き2・3） 4 掲載された短歌の中から印象に残った一首を選んで、四百字程度の感想文を書く。（手引き4）</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 <p>[主] 進んで短歌や俳句の特徴や表現効果を理解し、学習課題に沿って、それぞれの歌に込められた情景や心情を読み取ろうとしている。</p>
読む 秋の航—俳句抄 P80 1時間	[知技](1)ア、ウ [思判表] 読むこと(1)ア、ウ	<ul style="list-style-type: none"> ・俳句独自の特徴と表現効果を理解し、想像力を働かせて句の主題を読み取る。 <p>1 五・七・五の定型詩・季語・切れ（切れ字）・取り合せなど、俳句の基礎知識・概念を認識し、知っている俳句・俳人などを発表し合うことで、俳句に対して興味を持つ。 2 掲載された俳句を音読し、リズムを味わい、俳句に慣れる。（手引き1） 3 それぞれの句について、読解・鑑賞をして話し合う。（手引き2・3） 4 掲載された俳句の中から印象に残った一句を選んで、四百字程度の感想文を書く。（手引き4）</p>	<p>[知技]</p>
読む	[知技](1)ア、ウ	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムや形式に注 <p>1 教師の範読後に何回か読み、文語詩独特の表現やリズム</p>	

小景異情	P 84	[思判表] 読むこと(1)ア、イ	意して詩を読み味わい、「ふるさと」に対する作者の心情について考える。	ムについて気づいた点を挙げる。(手引き 1) 2 全体の意味を捉え、「ふるさと」への作者の思いを理解する。(手引き 2・3) 3 反復法とその効果を理解する。(手引き 1) 4 「ふるさと」への作者の思いを考えて話し合う。(手引き 4)	・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 [思判表] ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 [主] 進んでリズムや形式に注意して詩を読み味わい、学習課題に沿って、それぞれの詩に込められた作者の心情について考えようとしている。
読む 一つのメルヘン	P 86 1 時間	[知技](1)ア、ウ [思判表] 読むこと(1)ア、イ	・幻想的なイメージを味わい、そこに込められた作者の心情について考える。	1 リズムに注意しながら音読する。(手引き 1) 2 各連に描かれた情景をまとめる。(手引き 2) 3 この詩に用いられている表現の効果について考える。(手引き 3) 4 この詩を読み味わったうえで、感じたことを話し合う。(手引き 4)	
読む I was born	P 88 1 時間	[知技](1)ア、ウ [思判表] 読むこと(1)ア、イ	・散文詩を読み、蜉蝣(かげろう)のイメージに託された生命への思いを深く味わう。	1 詩を音読して、全体を把握する。 2 散文詩の特徴を理解し、独特な表現やリズムを味わう。(手引き 1・現代文の窓 1) 3 「父」に話しかけるまでの「僕」の気持ちの流れを読み取り、まとめる。(手引き 2) 4 「父」の話の内容を理解し、そこに込められた「父」の思いと、「父」の話を聞いた「僕」の思いを読み取り、まとめる。(手引き 3・4) 5 題名に込められた作者の思いについて話し合う。(手引き 5)	[知技] ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 [思判表] ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 [主] 進んで散文詩を読み味わい、学習課題に沿って、詩や題名に込められた作者の思いについて考えようとしている。
読む あいだ		[知技](1)ア、ウ [思判表] 読む	・詩に込められた作者の心情を理解し、	1 詩を音読し、表現の工夫について気づいた点を挙げる。(手引き 1)	[知技] ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあ

	P92 ■現代文の窓2 文語定型詩から口語自由詩へ	こと(1)ア、ウ [知技] (1)ア／(2)ア [思判表] 読むこと(1)エ	人と人との関係の在り方について考える。 2 作者が用いている特徴的な表現について考え、詩を読み深める。(手引き2) 3 終わりの三行に込められた作者の思いについて考える。(手引き3)	2 作者が用いている特徴的な表現について考え、詩を読み深める。(手引き2) 3 終わりの三行に込められた作者の思いについて考える。(手引き3)	ることを理解している。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・我が国の言語文化の特質や我が国と外国の文化との関係について理解している。 [思判表] ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 [主] 進んで詩の表現の仕方や特色を捉え、学習課題に沿って、詩に込められた作者の心情を理解し、人と人の関係の在り方について考えようとしている。
--	-------------------------------------	--	---	--	--

古文編5 和歌（11月）

読む 万葉集〔言語〕	P162 1時間	[知技] (1)ア、ウ、オ／(2)ウ [思判表] 読むこと(1)ア、イ、ウ ④ 読むこと(2)イ	・表現の特色に注意しながら、和歌の内容を読み取る。	□『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』について知っていることや、知っている歌を挙げ、学習を始める準備をする。 1 『万葉集』の成立、巻数、歌数、時代区分、主な歌人、歌体、頻出する修辞などを確認する。(古文学習のしるべ5) 2 短歌・長歌のリズム、句切れなどに注意しながら音読する。(古文学習のしるべ5・手引き1) 3 それぞれの歌について、現代語訳した上で、和歌の修辞を確認し、詠まれた時代や状況、作者の心情を考えてまとめる。(古文学習のしるべ4・5・手引き2)	[知技] ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 [思判表]
---------------	-------------	--	---------------------------	--	---

			<p>4 「不尽山を望みし歌」の長歌の表現上の特徴と、反歌の働きを理解する。(古文学習のしるべ5)</p> <p>5 「不尽山を望みし歌」の反歌について、『小倉百人一首』に載せられた歌とどのように違うか、話し合う。(言語活動)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 <p>[主] 進んで和歌における表現の特色を理解し、学習課題に沿って、和歌の内容を読み取ろうとしている。</p>
読む 古今和歌集	<p>P 166</p> <p>1 時間</p>	<p>[知技] (1)ア、ウ、オ／(2)ウ</p> <p>[思判表] 読むこと(1)ア、イ、ウ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・和歌に表れたものの見方、感じ方、考え方を読み取る。 <p>1 『古今和歌集』の成立、撰者、部立、頻出する修辞などを理解する。また、勅撰和歌集についても確認する。(古文の窓 9・古文学習のしるべ5)</p> <p>2 歌の句切れやリズムに注意しながら、歌を音読する。(手引き1)</p> <p>3 五三番歌～三三七番歌の四季の歌を、現代語訳した上で、季節の風物をどのように捉えて表現しているか、和歌の修辞を確認しながらまとめる。(古文学習のしるべ4・5・手引き2)</p> <p>4 四〇六番歌～九五六番歌の「羈旅歌」「恋歌」「雑歌」を現代語訳した上で、和歌の修辞を確認し、それぞれどのような心情が詠まれているか、まとめる。(古文学習のしるべ4・5・手引き3)</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 <p>[主] 進んで和歌における表現の特色を理解し、学習課題に沿って、和歌に表れたものの見方、感じ方、考え方を読み取ろうとしている。</p>

<p>読む 〔言語〕『古今和歌集』と『土佐日記』を読み比べる—阿倍仲麻呂の歌</p> <p>P 170 1時間</p>	<p>[知技] (1)ア、ウ、エ／(2)イ、ウ [思判表] 読むこと(1)イ、エ、オ ④ 読むこと(2)ウ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の成立した背景や他の作品との関係を踏まえながら、解釈を深める。 	<p>1 『古今和歌集』と『土佐日記』の概略を確認する。 2 『古今和歌集』(阿倍仲麻呂の歌と左注)と『土佐日記』(正月二十日)を読み、共通点と相違点を整理する。(課題1) 3 2で整理した相違点について、違いが生じた理由を考えて話し合う。(課題2)</p>	<p>[知技] <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・古典の作品に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的な背景などを理解している。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 <p>[思判表] <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。 <p>[主]進んで作品の成立した背景や他の作品との関係を理解し、学習課題に沿って、作品の解釈を深めようとしている。</p> </p></p>
<p>読む 新古今和歌集 〔言語〕</p> <p>P 172</p>	<p>[知技] (1)ア、ウ、オ／(2)ウ [思判表] 読むこと(1)ア、イ、ウ、エ、オ ④ 読むこと(2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな内容や表現の和歌を読み取り、解釈を深める。 	<p>1 『新古今和歌集』の成立、撰者、部立、頻出する修辞などを理解する。また、成立した時代の政治状況を認識する。(古文の窓9・古文学習のしるべ5) 2 歌の句切れやリズムに注意しながら、歌を音読する。(手引き1) 3 それぞれの歌を、現代語訳した上で、和歌の修辞を確</p>	<p>[知技] <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 </p>

<p>■古文の窓9 勅撰和歌集の構成</p> <p>P 176</p>	<p>イ</p> <p>[知技] (2)イ [思判表] 読むこと(1)エ</p>	<p>認し、詠まれた情景や心情を読み取り、まとめる。(手引き2・古文学習のしるべ4・5) 4 宮内卿の歌と藤原家隆の歌をそれぞれの本歌と比較し、共通点と相違点をまとめる。(手引き3・古文学習のしるべ5) 5 後に「三夕の歌」と呼ばれるようになる「秋歌上」の三六一番歌～三六三番歌を詠み比べ、気づいたことをまとめる。(手引き4) 6 『新古今和歌集』に表れる美意識について理解する。</p> <p>□『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』の歌の傾向の違いについて考え、話し合う。(言語活動)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。 ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。 <p>[主] 進んで和歌における表現の特色を理解し、学習課題に沿って、さまざまな内容や表現の和歌を読み取り、解釈を深めようとしている。</p>
<p>書く 〔言語〕短歌を作る</p> <p>P 179</p> <p>2時間</p>	<p>[知技] (1)オ／(2)ウ [思判表] 書くこと(1)イ／ ④書くこと(2)ア</p>	<p>・自分の感じたことや伝えたいメッセージなどを、古典的技法に倣って短歌にし、効果的に書く。</p> <p>□『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』の中から好きな歌を一首選び、その理由を発表する。</p> <p>1 和歌の歴史や伝統について、概略を理解する。 2 和歌の技法の一つである「折句」について、『伊勢物語』の例と折句の解説(178ページ)をもとに確認する。</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 <p>[思判表] 「書くこと」において、自分の体験や思いが</p>

			<p>3 短歌を作るために、折句で詠み込む五音の言葉を決める。(課題① 1)</p> <p>4 決めた五音が各句の頭に来るよう短歌を作り、推敲する。(課題① 2)</p> <p>5 「本歌取り」の技法について確認する。</p> <p>6 Aに倣い、「君がため」「わが」「つつ」を用いて、フレーム短歌を作り、推敲する。(課題② 1)</p> <p>7 Bに倣い、「くるしみは……時」「たのしみは……時」「かなしみは……時」などの形でフレーム短歌を作り、推敲する。(課題② 2)</p> <p>8 課題 1・2 で作った短歌を短冊に書き、作品に仕上げる。(課題③ 1)</p> <p>9 作品を貼り出したり、コピーして配ったりして、表現の仕方などについて互いに批評し合い、話し合う。</p> <p>□短歌を実作する前と、実作した後で、我が国の言語文化としての和歌(短歌)に対する考え方か変わったか、話し合う。</p>	<p>効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。</p> <p>[主]進んで短歌の構成や語句などの表現の仕方を工夫し、学習課題に沿って、自分の感じたことや伝えたいメッセージなどを、古典的技法に倣って効果的に書こうとしている。</p>
読む 恋の歌を読み比べる 〔言語〕 P 182 1 時間	<p>[知技] (1)ア、ウ、オ／(2)イ [思判表] 読むこと(1)イ、エ、オ (注) 読むこと(2)オ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな時代の恋の歌を読み比べて、ものの見方、感じ方、考え方を深める。 	<p>□『古今和歌集』『新古今和歌集』の恋の歌、『小倉百人一首』中の恋の歌などから好きな歌を選び、発表する。</p> <p>□近現代の詩歌、現代の楽曲の中からも好きなものを選び、発表する。</p> <p>1 古典和歌で、恋の気持ちがどのように詠まれているか確認する。(言語活動 1)</p> <p>2 近現代の詩歌の内容を確認し、恋の気持ちを読み取る。また、古典和歌と近現代の詩歌とを読み比べ、共通点や相違点についてまとめる。(言語活動 1)</p> <p>3 現代の楽曲に表れた恋の気持ちを確認する。(言語活動 1)</p> <p>4 言語活動 1 での読み比べを通して気づいたことを踏</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。 ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 	

			<p>まえ、さまざまな「恋の歌」から一つ選び、八百字程度で鑑賞文を書く。(言語活動2)</p> <p>□鑑賞文でどのような詩歌や楽曲を扱ったか、また、鑑賞文を書くにあたってどんな点を工夫したか、発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持っている。 <p>[主] 進んで詩歌や楽曲に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、学習課題に沿って、さまざまな時代の恋の歌を読み比べて、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。</p>
--	--	--	--	--

古文編6 作り物語と軍記物語（12月）

読む 竹取物語 <small>〔言語〕</small> ■古文の窓 10 さまざまな竹取説話 ■古文の窓 11 古典文学の中の富士山 P 194 1 時間	P 186	<p>【知技】 (1)ア、ウ、エ／(2)ウ 【思判表】 読むこと(1)ア、イ、オ (活) 読むこと(2)イ</p> <p>【知技】 (2)イ 【思判表】 読むこと(1)エ</p> <p>【知技】 (1)ア／(2)イ 【思判表】 読むこと(1)エ</p>	<p>・作り物語に表れた多様な思いを、叙述を基に的確に捉える。</p> <p>□昔話としての「かぐや姫」について、知っていることを発表する。</p> <p>□『竹取物語』の概略を理解する。</p> <p>□「なよたけのかぐや姫」（参考）を音読し、古文のリズムを味わう。また、大まかな内容を理解する。</p> <p>□かぐや姫の誕生についてどのように描かれているか確認し、作品の伝奇的特質について話し合う。</p> <p>□伝奇的特質に注目して、昔話などの話型を確認する。</p> <p>【天の羽衣】</p> <p>1 全文を通読し、概略を捉える。（語句と表現1）</p> <p>2 主に「王とおぼしき人」の言動に注目し、天人の能力や、その考え方を読み取る。</p> <p>3 かぐや姫が翁のもとに来た理由がどのように語られているか、まとめる。（手引き1）</p> <p>4 「王とおぼしき人」と翁それぞれの言動を整理し、天上と地上の世界を比較する。</p> <p>5 かぐや姫の言動に注目し、その人物像について考える。</p> <p>6 「今はとて…」の歌に託されるかぐや姫の思いと、「天</p>	<p>【知技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 <p>【思判表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や
--	-------	---	---	---

		<p>の羽衣」の効力について考える。(手引き 2)</p> <p>7 敬語の種類とその用法について確認する。(語句と表現 2・3)</p> <p>8 さまざまな竹取説話があることについて知識を得る。(古文の窓 10)</p> <p>【富士の山】</p> <p>1 全文を通読し、概略を捉える。</p> <p>2 帝の心情と行動について考える。(手引き 1)</p> <p>3 「富士の山」の名前のいわれについて、本文の内容をまとめる。(手引き 2・古文の窓 11)</p> <p>4 敬語の種類とその用法について確認する。(語句と表現 1)</p> <p>□ 「天の羽衣」「富士の山」から、当時の人々のどのような思いが読み取れるか、話し合う。(言語活動)</p>	<p>他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持っている。 <p>[主] 進んで文章の展開や表現の特色を理解し、学習課題に沿って、作り物語に表れた多様な思いを的確に捉えようとしている。</p>
--	--	--	--

漢文編 4 史話 (12月)

読む 史話一三編 〔言語〕 ■漢文の窓 5 天子を称する者—王から皇帝へ P 272 3 時間	P 264	<p>【知技】 (1)ア、ウ、エ／(2)イ 【思判表】 読むこと(1)ア、イ、オ ㊂ 読むこと(2)イ</p> <p>【知技】 (2)イ 【思判表】 読むこと(1)エ</p>	<p>・話の展開や登場人物の言動を読み取り、史話のおもしろさを味わう。</p> <p>□三編の題名が成語として用いられていることに触れ、その意味を確認する。</p> <p>□神話時代から春秋時代に至る中国史の概略を整理する。</p> <p>□『史記』・『十八史略』の形式や成立事情を確認する。</p> <p>【晏子之御】</p> <p>1 範読を手がかりに、本文を繰り返し音読する。</p> <p>2 脚注等を参照しながら、句法に注意して正確に現代語訳し、内容を整理する。(手引き 1・語句と表現 1)</p> <p>3 御者の妻が、晏子と自分の夫(御)をどのように比較し、どんな決断をしたかを読み取る。(手引き 2)</p> <p>4 妻の発言は、夫にどのような変化をもたらし、晏子はどのように評価したかを読み取る。(手引き 3)</p>	<p>【知技】</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 <p>【思判表】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。
---	-------	---	---	--

		<p>5 三人の人物像を確認するとともに、『史記』において晏子が高く評価される理由を明らかにする。（言語活動）</p> <p>【管鮑之交】</p> <p>1 本文を繰り返し音読し、正しく書き下し文を書くことで書き下しのきまりを確認する。</p> <p>2 管仲が桓公に用いられる経緯について、語句・句法の意味、用法に注意して現代語訳する。（手引き1）</p> <p>3 管仲と鮑叔の交友を、語句・句法の意味、用法に注意して現代語訳する。（手引き2）</p> <p>4 現代語訳を完成し、桓公の管仲に対する評価の変化を理解する。</p> <p>5 「管鮑の交わり」という故事成語がどのように使われるかを調べ、また、自分の体験とも照らし合わせる。（手引き3・語句と表現1）</p> <p>【臥薪嘗胆】</p> <p>1 正しく音読できるようになった後で、漢文を参考に重要な箇所を書き下し文で書く。（手引き1）</p> <p>2 吳王闔廬に仕える伍子胥の逸話と、闔廬の死後夫差が「臥薪」し句践に復讐を遂げるまでを、語句・句法の意味、用法に注意して現代語訳する。（手引き3）</p> <p>3 越王句践が「嘗胆」し、長年の準備の後で吳を滅亡させる結末までを、語句・句法の意味、用法に注意して現代語訳する。（手引き3・4）</p> <p>4 全体を把握して、「吳・越」の関係を理解する。（手引き2・4）</p> <p>5 吴が負けた理由、越が勝った理由をそれぞれ話し合う。</p> <p>6 「臥薪嘗胆」その他の故事成語はどのように使われるかを調べる。（語句と表現1）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。 <p>[主] 進んで話の展開や登場人物の言動を読み取り、学習課題に沿って、史話のおもしろさを味わおうとしている。</p>
--	--	---	--

		<p>□「漢文の窓5 天子を称する者—王から皇帝へ」（教科書272ページ）を読んで、古くから霸を競い合った諸国や、中国を初めて統一した秦、続く漢などの国々が、支配者の称号として何を用い、どのように支配体制を構築したかを理解する。（漢文の窓5）</p> <p>□国語便覧などを用い、史話が出典とされる故事成語に触れる。</p> <p>□三編の史話をふまえ、日本史や世界史の教科書に記述されるような「歴史」と、中国の歴史書の「歴史」の違いについて考える。</p> <p>□故事成語が、今も身近にあって、我々のあり方・生き方を考える言葉であることを理解する。</p>	
--	--	--	--

■ 3学期

現代文編4 作品を読み比べる（1月）

読む 桜に関する作品を読み比べる 〔言語〕 P 96 3時間	<p>[知技] (1)ア、ウ、エ／(2)ア [思判表] 読むこと(1)エ、オ</p> <p>・桜に関して書かれた多様な形式の作品を読み比べながら、日本文化における桜のありようを探る。</p>	<p><第1時></p> <p>1 桜についての詩歌や文章を通読する。 2 [A] の古典和歌において桜がどのように詠まれているか考える。（言語活動1）</p> <p><第2時></p> <p>1 [B] [C] について、形式の違いにも注意しながら、近現代の詩歌において桜に託された作者の思いを比較する。（言語活動2） 2 [D] の隨筆において、桜を巡る筆者の考えがどのように変化しているか、まとめる。（言語活動3）</p> <p><第3時></p> <p>1 [A] から [D] で描かれた桜を比較し、読み比べを通して気づいたことを、八百字程度の文章にまとめ</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、
--	---	--	--

			る。(言語活動4)	自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。 【主】進んで桜に関して書かれた多様な形式の作品を読み比べ、学習課題に沿って、日本文化における桜のありようを探ろうとしている。
--	--	--	-----------	--

古文編6 作り物語と軍記物語（1月）

読む 平家物語	[知技] (1)ア、 ウ、エ／(2)ウ [思判表] 読む こと(1)ア、イ、 ウ	P 196 3時間	<ul style="list-style-type: none"> ・軍記物語特有の表現に注目しながら、登場人物の描かれ方を読み取る。 <p>□「木曾の最期」に至るまでのいきさつを確認する。</p> <p>【木曾の最期】</p> <ol style="list-style-type: none"> 全文を通して話の大筋をつかむ。(手引き1・語句と表現1) 第一場面を読み、再会を果たした義仲と兼平の心情を読み取る。 第二場面の軍記物語に特有のすぐれた描写を指摘し、その効果を考える。(語句と表現2) 義仲と巴の心情の動きと通じ合いを読み取る。(手引き2) 第三場面の敬語に着目し、会話の内容を読み取る。 義仲に自害を勧める兼平の心情と、義仲の言動と心情とを読み取る。(手引き3) 第四場面の兼平の奮戦を、描写に着目して読み取る。 義仲と兼平の心情に触れながら、それぞれの死の描かれ方について考える。(手引き4・5) 	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 <p>【主】進んで軍記物語特有の表現などについて理解し、学習課題に沿って、登場人物の描かれ方を読み取ろうとしている。</p>
読む 〔言語〕受け継がれる	[知技] (1)ア／ (2)カ		<ul style="list-style-type: none"> ・古典を素材とした芸能などを調べ、受 <p>1『平家物語』が後世の文学・芸能に与えた影響について確認する。</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあ

『平家物語』	P 206 1 時間	<p>[思判表] 読むこと(1)ウ、エ、オ (活) 読むこと(2)オ</p> <p>け継がれてきた言語文化について自分の考えを持つ。</p>	<p>2 『平家物語』を素材とした作品を、『平家物語』本文と読み比べ、登場人物や場面設定、あらすじなどについて、共通点や相違点を調べる。 (課題 1)</p> <p>3 調べたことや考えたことを基に、それぞれの作品がどのような工夫によって新たな展開をさせているのか、まとめる。 (課題 2)</p> <p>4 3 を基に発表し、意見や感想を述べ合う。 (課題 2)</p> <p>□文体を意識して、場面に応じた音読をする。</p>	<p>ことを理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持っている。 <p>[主] 進んで『平家物語』を素材とした芸能などを調べ、学習課題に沿って、受け継がれてきた言語文化について自分の考えを持とうとしている。</p>
--------	---------------	--	---	---

古文編 7 俳諧（1～2月）

読む 奥の細道〔言語〕	P 210	<p>[知技] (1)ア、ウ、エ／(2)ア、ウ</p> <p>[思判表] 読むこと(1)ア、イ、ウ、エ (活) 読むこと(2)イ</p> <p>・構成に注目しながら、作品に込められた思いを読み取る。</p>	<p>□『奥の細道』について知っていることを発表する。また、出典や作者などについては教科書の出典・作者紹介などで調べておく。(古文の窓 1 2)</p> <p>【漂泊の思ひ】</p> <p>1 全文を通読し、前段と後段それぞれの概略を読み取る。(手引き 1)</p> <p>2 用いられている修辞や省略表現を探し、発表する。(語句と表現 1・2)</p> <p>3 前段に記された旅の動機、人生観、旅の準備をする心情について読み取る。</p> <p>4 「草の戸も…」の句を解釈し、作者の心情を読み取る。(手引き 2)</p> <p>5 後段を読み、旅立ちの様子とその時の心情を読み取る。(語句と表現 2)</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・我が国の言語文化の特質や我が国と外国の文化との関係について理解している。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容
■古文の窓 12 曾良旅日記	P 212 2 時間	<p>[知技] (2)イ</p> <p>[思判表] 読むこと(1)エ</p>		

		<p>6 「行く春や…」の句を解釈し、作者の心情を読み取る。 (手引き 2)</p> <p>7 作者が旅をどのようなものと捉えているかをまとめ る。 (手引き 3)</p> <p>【平泉】</p> <p>1 書かれている場所を意識しながら全文を通読し、概略 を読み取る。</p> <p>2 作者は、どのようなものが滅び、どのようなものが残 っていると述べているか、整理する。 (手引き 1)</p> <p>3 中国の故事「黄粱一炊の夢」と、杜甫「春望」の内容 を確認する。</p> <p>4 高館で作者が「涙を落とし」た理由を考える。</p> <p>5 「夏草や…」「卯の花に…」の句を解釈し、曾良の句 を置くことにより、どのような効果があるかを考え る。 (手引き 2)</p> <p>6 「五月雨の…」の句に表現された作者の感動を読み取 る。 (手引き 2)</p> <p>7 「五月雨の…」の句における初稿との違いについて考 え、話し合う。 (言語活動)</p> <p>8 自然と人為について作者はどう考えているのかをま とめる。 (手引き 3)</p> <p>【大垣】</p> <p>1 全文を通読し、概略を読み取る。</p> <p>2 作者が大垣に到着した際の様子や、迎える人々の気持 ちを読み取る。</p> <p>3 作者の伊勢への出発の事情を「漂泊の思ひ」と関連さ せながら読み取る。 (手引き 1)</p> <p>4 「蛤の…」の句を解釈し、この句で『奥の細道』が結 ばれた意図を考える。 (語句と表現 1・手引き 2)</p> <p>5 「漂泊の思ひ」から「大垣」までに出てきた六つの句</p>	<p>や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えてい る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、作品や文章に表れているもの の見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕 方、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や 他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めて いる。 <p>[主] 進んで文章の構成や展開について理解し、学習課 題に沿って、作品に込められた作者の思いを読み取ろ うとしている。</p>
--	--	--	---

			<p>について、季語と切れ字を確認する。(語句と表現 2)</p> <p>□『奥の細道』の文学史的位置について理解する。</p>	
書く 〔言語〕 文学碑を調べる 1 時間	P 218	<p>[知技] (1)ア [思判表] 書くこと(1)ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の文学碑を調べ、集めた材料を吟味し、整理する。 	<p>□自分の住んでいる地域に関わる文学作品や作家について知っていることを発表し合う。</p> <p>1 教科書に掲載された例を参考にしつつ、「文学碑」の概略を理解する。</p> <p>2 自分の住む地域にはどのような文学碑があるのか確認する。 (課題 1)</p> <p>3 自分が興味を持った文学碑について調べ、[ワークシート例] を参考にして整理する。 (課題 2)</p> <p>4 3を基に、自分の住む地域と文学との関わりについて、考えたことや気づいたことをまとめること。</p> <p>□地域にとって文学碑はどのような役割や意味を持っているのか、各文学碑の建立の経緯から考察し話し合う。</p>	<p>[知技] 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。</p> <p>[思判表] 「書くこと」において、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。</p> <p>[主] 進んで文学碑について理解し、学習課題に沿って、地域の文学碑を調べ、集めた材料を吟味し、整理しようとしている。</p>

古文編 古文の広がり（2月）

読む 昔の犬は何と鳴く 〔言語〕 1 時間	P 220	<p>[知技] (2)ア、エ、カ [思判表] 読むこと(1)イ、オ 活 読むこと(2)ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の変化についての解説を読み、言語文化への視野を広げる。 	<p>□古文に関する現代の文章を読むことが古文の多様な広がり、古文に対する多様なアプローチに触れるることになることを理解する。</p> <p>1 本文を通読し、概略を読み取る。</p> <p>2 筆者は犬の鳴き声が昔「びよ」「びょう」であったことをどのように論証しているか、その過程を整理する。 (言語活動 1)</p> <p>3 古文に用いられている擬音語・擬態語について調べ、現代語と比較して気づいたことをまとめ、発表する。 (言語活動 2)</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我が国の言語文化の特質や我が国と外国の文化との関係について理解している。 ・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。 ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。

			<p>□「言語文化」における古文学習を振り返り、古文学習の意義について確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持っている。 <p>[主]進んで古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解し、学習課題に沿って、筆者の論証の過程を整理したり、古文における擬音語・擬態語を現代語と比較したりしようとしている。</p>
読む 文体の変遷	P 225 1時間	<p>[知技] (2)ア、イ、オ [思判表] 読むこと(1)エ、オ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的な文体の変化について、実例に即しながら理解を深める。 <p>□話し言葉と書き言葉、小論文の文章とメールの文章などの例を考える。</p> <p>1 「古典の文体」を読み、漢字で日本の言葉を書き記すために積み重ねられてきた工夫について理解し、気づいた点や、興味・関心を持った点を挙げる。(課題1)</p> <p>2 「近代の文体」を読み、書き言葉を話し言葉と一致させる「言文一致体」について理解し、気づいた点や、興味・関心を持った点を挙げる。(課題1)</p> <p>3 日本語の文体がどのように変化してきたかについて、教科書に掲載されている文章なども踏まえながら話し合う。(課題2)</p> <p>□古典から近代までの流れをまとめる。</p> <p>□「近代の文体」の文章を現代の文章と比べる。また、日常の話し言葉と比べ、「言文一致体」について考える。</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 ・言文一致体や和漢混交文など歴史的な文体の変化について理解を深めている。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持っている。 <p>[主]進んで歴史的な文体の変化について理解を深め、学習課題に沿って、実例に即して気づいた点や興味・関心を持った点を挙げたり、日本語の文体の変化について話し合いをしたりしようとしている。</p>
漢文編5 思想（3月）				
読む 論語—十章	P 274 2時間	<p>[知技] (1)ア、ウ、エ／(2)イ [思判表] 読むこと(1)ア、イ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・『論語』を読むことを通して、孔子の思想に興味を持ち、ものの見方や考え方 <p>□『論語』の成立と伝播、孔子の生きた時代背景、孔子の略歴を、ノートにまとめる。</p> <p>【学問を語る】</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それら

		<p>を豊かにする。</p> <p>【人生を語る】</p> <p>1 本文を繰り返し音読し、書き下し文にする。(語句と表現 1)</p> <p>2 脚注を参照して正確に現代語訳し、内容を理解する。</p> <p>3 孔子の学問観について考える。(手引き 1)</p> <p>4 「為政」「述而」の章から生まれた成語を確認する。</p> <p>【政治を語る】</p> <p>1 本文を繰り返し音読し、書き下し文にする。(語句と表現 1)</p> <p>2 脚注を参照して正確に現代語訳し、内容を理解する。(語句と表現 1)</p> <p>3 孔子や弟子の人間観、「忠」「信」、「志」についての考えを読み取り、「巧言令色」や「仁」についても調べる。(手引き 2・語句と表現 2)</p> <p>4 孔子による弟子の評価から、人間観として重視していたものを読み取る。</p>	<p>の文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・我が国の言語文化の特質や我が国と外国の文化との関係について理解している。 ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的な背景などを理解している。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。 <p>[主] 進んで自分のものの見方、考え方を深め、学習課題に沿って、『論語』を読んで孔子の学問観・人間観・政治観について考えたり、『論語』の注釈を読んで自分の考えを伝え合ったりしようとしている。</p>	
中国と日本 『論語』の注釈を読む	[知技] (1)ア、ウ、エ／(2)ア、	<p>・『論語』の注釈を読み、日本での『論語』</p> <p>□現代文や古文と同様に、漢文で扱う教材の中には、解釈や訓読の仕方が複数存在するものがあることを確</p>	[知技]	<p>・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあ</p>

P278 1時間	イ [思判表] 読むこと(1)イ、エ、オ ④ 読むこと(2)ウ	の受容について知るとともに、漢文を自分で解釈する力を養う。	認する。 1 『論語』の解釈や注釈について、概略を理解する。 2 「親孝行とは何か」という問い合わせに対する孔子の発言について、二つの方向性の解釈があることを理解し、朱熹と伊藤仁斎の解説を読み比べる。(問1) 3 朱熹と伊藤仁斎の説のどちらに賛同するか考え、理由も示しつつ、グループで話し合う。(問2) 4 『論語集注』と『論語古義』を読み、日本で一般的に考えられている「親孝行」と比較し、気づいたことをグループで話し合う。(問3)	ことを理解している。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・我が国の言語文化の特質や我が国と外国の文化との関係について理解している。 ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的な背景などを理解している。 [思判表] ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 ・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。 [主] 進んで自分のものの見方、考え方を深め、学習課題に沿って、『論語』を読んで孔子の学問観・人間観・政治観について考えたり、『論語』の注釈を読んで自分の考えを伝え合ったりしようとしている。
書く 〔言語〕「孔門の十哲」名鑑を作る P281 1時間	[知技] (2)イ [思判表] 書くこと(1)ア	・好きな人物を選び、調べて得た情報を的確に整理して、人物像が伝わる名鑑を作る。	1 教科書 281 ページの例を参考に、どのような名鑑を作りか話し合う。(課題1) 2 分担して、『論語』や『史記』などで調べる。(課題2) 3 調べたことを整理して、一枚の用紙にまとめる。(課題3)	[知技] 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的な背景などを理解している。 [思判表] 「書くこと」において、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。

			<p>4 同じ人物について調べたグループで、名鑑の違いなどを比較する。(課題 3)</p> <p>□制作した名鑑を見て、孔子と弟子たちとの関係について理解を深める。</p> <p>□相手に自分の調べたことや考えを伝えるにはどのような工夫をすればよいかを確認する。</p>	<p>[主] 進んで調べて得た情報を的確に整理し、学習課題に沿って、人物像が伝わる名鑑を作ろうとしている。</p>
読む 孟子 ■漢文の窓 6 科挙と学問—作詩から 経典解釈へ	P 282 P 284 1 時間	<p>[知技] (1)ア、ウ、エ／(2)イ [思判表] 読むこと(1)ア、イ、ウ</p> <p>[知技] (2)イ [思判表] 読むこと(1)ア</p>	<ul style="list-style-type: none"> 孟子の比喩表現を多用した論理展開を読み、孟子の思想に興味を持つ。 <p>□時代背景、孟子の略歴・孔子との関係をノートにまとめる。</p> <p>1 本文を繰り返し音読する。 2 正しい訓読をもとに語彙を調べ、正確に現代語訳する。(手引き 1・語句と表現 1) 3 孟子の性善説について理解する。(手引き 1) 4 孟子の論理展開について考え、その説得術を理解する。(手引き 2・語句と表現 2)</p> <p>□科挙の歴史と仕組みを理解し、中国の思想に対する理解を深める。(漢文の窓 6)</p>	<p>[知技]</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 我が国の一言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 我が国の一言語文化の特質や我が国と外国の文化との関係について理解している。 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的な背景などを理解している。 <p>[思判表]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 <p>[主] 進んで孟子の比喩表現を多用した論理展開について理解し、学習課題に沿って、孟子の思想に興味を持とうとしている。</p>